

# オホーツクの風

平成26年10月8日(木) 0011号

発行所  
北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局  
北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

## 今年12月1日、新病院開院

### 引っ越し大作戦、通常診療と同時進行中!!

北見赤十字病院の移転新築工事は清水・北成・村井・松谷特定建設工事共同企業体によって現在最終仕上げ段階に入っています。

今月末、引き渡しを受けた後、新病院の診療に関わる全ての整備を1カ月ほどで完備し、11月28日(金)・29日(土)・30日(日)の3日間で、新病院への引っ越しを実施します。そして待ちに待った新病院の開院を迎えるのです。

その引っ越し大作戦を実施するために「病院移転実施本部」を院内に設置。本部長に荒川副院長、副本部長に相原事務副本部長・佐々木看護副本部長が就任。事務局は総務課が担当。総勢50名弱の大世帯です。ここであらゆ

る課題のすりあわせ、話し合いが行われ、その解決策が出現、実施します。医療関係以外の引っ越しは日本通運が担当し、9月1日から病院の体育館にそ

の道のプロが常駐してその準備を進めています。引っ越しの最大の課題は患者さんのベッドを29日(土)午前中に新病院にすべて納めることで

す。現在、500ベッドほどの患者さんが入院して居ますが、患者さんの外泊や退院、入院の調整などで200ベッド余りにしなければ1秒1分を争うベッドの移動は出来ません。その調整を看護部のスタッフが各病棟ごとに行っています。

9月27日(土)、ベッド搬送のシミュレーションが南館と新病院を繋ぐ2階の渡り廊下を使って行われました。渡り廊下の導入部が直角に曲がっていて、ベッドが角にぶつかり完全に短時間に搬送することが出来ませんでした。早速、工事担当の清水建設JVは緩やかに斜めからの搬入が出来るように改修工事に着手しました。



撮影：平成26年7月15日

10月25日(土)、新病院の情報システムの作動試験を行います。模擬の患者さんが朝、外来

受付に来ます、診療、検査(レントゲンや生体検査)、そして会計の精算まで、正確に時間通りに行われるかのシミュレーションが行われます。

最後に残る最大の難問は、旧ベッドや備品・機器の廃棄処分です。患者さんが目にする新病院のベッドや備品・機器などは新しいものになります。旧病院で使った備品など大量の物品をどこで保管し、それをどう処分するかです。医療福祉団体への譲渡そして廃棄物の投棄などその対策に頭を痛めているところでは、今年12月1日(月)、新病院の開院の後、南館の改修、東館・西館・別館・体育館などの解体、多目的ホールの建設、そして道立病院の用地の整備などが今後行われ、全ての工事の完了は来年11月末の予定です。



平成26年9月29日(月)夕方、会の谷川・阿久津・阿部・逢坂が総務課の遠藤係長を訪れ、引っ越し大作戦の取材を致しました。係長はご多忙にも関わらず、詳しく分かりやすくインタビューに応じて戴きました。その取材を基に当紙面を編集しました。